

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所  
2022年度 パフォーマンス向上会議情報(2022年4月21日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年4月21日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【双葉消防本部立入検査における指摘について】 2022年3月16日に双葉消防本部の立入検査が行われ、以下の指摘を受けた。 ・2号機軽油タンク、4号機軽油タンクの保有空地内に配管等が設置されていることから、撤去すること。 ・2号機軽油タンク、4号機軽油タンクの構内道路については、許可時の状態に改善すること。</p> <p>※主管G毎にまとめています。不適合件数は1件となります。</p>	G II	4月5日
2	<p>【協力企業による個人線量算定結果報告の誤りについて】 令和4年4月に、協力企業にて作業員の放射線管理手帳更新手続きを実施したところ、更新対象となる作業員の放射線管理手帳と中央登録センターの累積線量に差異があることが判明した。 協力企業にて調査を実施したところ、差異が確認された作業員について、協力企業が平成27年5月に当社に報告した個人線量算定値が別の作業員と入れ間違っていた。 報告後当社にて原子力入構者管理システム(G7)へ2人の正しい個人線量算定値の修正登録を実施し、対外報告について修正報告を実施予定。</p>	G II	4月18日
3	<p>【多核種除去設備ろ過水供給ポンプ(A)の吐出圧力計計器元弁のシート漏えいについて】 当社社員が、ろ過水供給ポンプ(A)の吐出圧力計の点検のため、計器元弁閉操作後に計器取り外しを行ったところ、取り外し箇所から、ろ過水がにじんできたため、計器元弁にシート漏えいがあると判断。 今後、当該箇所の点検・交換を実施予定。 当該弁は通常は「開」運用であることから、シート漏えいによる系統への影響はない。</p>	G III	4月13日
4	<p>【既設多核種除去設備(C)系苛性ソーダ供給ポンプ1C出口ラインからのにじみについて】 協力企業作業員が、停止中の既設多核種除去設備(C)系苛性ソーダ供給ポンプ1C出口ラインホースの下部に10cm×15cm×1mmの漏えい痕を発見。 当直にてpH測定を実施したところpH14程度であったため、苛性ソーダ供給ポンプ1C出口ラインホースからの苛性ソーダのにじみと判断。 苛性ソーダ供給ポンプ1C出口弁「全閉」および漏えい痕周りの出口ラインについて、拭き取り・養生・受け設置を実施。 今後、当該ホースを交換予定。 なお、他の系統および増設多核種除去設備にて代替え運転が可能であり、系統機能に影響なし。</p>	G III	4月17日
5	<p>【750tクローラクレーン「かがやき」の故障について】 協力企業作業員が、1号機オペフロ飛散防止剤散布完了後クローラクレーンを移動していたところ停止し動かなくなった。その後、走行・旋回・ブームジブ起こし等の動作不可を確認。 調査の結果、発電機に接続している端子がクローラクレーン移動時の振動により緩みが発生し、各部へ制御信号が送信されなかったことから、エンジンスターターが回り続け故障したことと推定。 故障したエンジンスターターモーターの交換、および発電機に接続している端子の増し締めを行い、走行・旋回・ブームジブ起こし等の動作復帰。 今後、端子が緩んだ対策を検討。</p>	G III	4月15日